

算数科

算数科における指導の重点（身に付けさせたい力） ※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
数量や図形などの基礎的、基本的な意味や表し方を理解し、処理する技能を身に付ける。	問題場面の数量の關係に着目し、式の意味を読み取ったり説明したりする力を養う。

	児童・生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証（2月）
第1学年	<p>ア・10の合成、分解の習熟に課題がある児童が多い。</p> <p>イ・問題の場面を式に表すことが難しい。</p>	<p>ア・ブロックなどの半具体物を用いた操作を十分に積み重ね、量感を伴って数をイメージできるようにした上で抽象化を図れるように、段階的に取り組む。 10の合成、分解について、素早く言えるようにフラッシュカードなどを活用して継続的に取り組む。</p> <p>イ・アプリケーションの「ミライシード」を活用して適宜習熟を図る。</p> <p>イ・問題場面を図に表したり、ブロックを操作したりする活動を通して文意を捉えられるようにする。</p>	9月～2月	<p>ア・ブロックなどの操作を十分に行うことで10の合成・分解の定着を図ることができた。習熟には個人差もみられるため、継続的に指導を行っていく。</p> <p>イ・問題場面を図に表したり、ブロックに置き換えたりして、それをもとに立式することを繰り返し行ったことで、問題文を具体的に捉えて式に表すことができるようになった。</p>
第2学年	<p>ア・一つの数を多面的に捉えた数の構成を理解することが難しい。 ・長さや水のかさにおいて、単位の關係の理解に課題がある。</p> <p>イ・立式することや、等号、不等号や（ ）を用いた式の意味は理解できるようになったが、説明したり、活用したりすることが難しい。</p>	<p>ア・具体物や数直線を用いて視覚的に数の構成を捉えられるようにする。長さやかさについてはおおよその見当を付けるとともに、身近な物の測量活動を繰り返して単位の關係を経験として実感させることで量感を養う。</p> <p>イ・アプリケーションのミライシードを活用して適宜習熟を図る。</p> <p>イ・ペアやグループなどの少人数で説明する機会を増やす。図や絵を用いて説明や理解の補助となるようにする。</p>	9月～2月	<p>ア・単元を学習している時には理解が深まるが、時間が経ってしまうと忘れてしまうことがある。適宜復習の機会を設ける必要がある。</p> <p>イ・自分の考えを説明したり、ノートにまとめたりする活動によって、課題が解決してきた。学習した内容を自分の考えの中に意図的に取り入れる場面設定が必要である。</p>
第3学年	<p>ア・数や計算の意味についての理解が難しい。 ・九九の定着に課題がある。</p>	<p>ア・計算の意味を数直線や図などを用いて説明する活動を多く取り入れる。 ・「3分間九九テスト」を行い、九九の定着を図る。</p> <p>イ・アプリケーションのミライシードを活用して適宜習熟を図る。</p>	9月～2月	<p>ア・九九テストの実施により、九九の定着を図ることができ、計算ミスが減った。 ・ミライシードの活用により、習熟できた児童と、そうでない児童がいた。どの時間を利用</p>

	<p>イ・問題文を読んで、何を求めるのか、どのくらいの量なのかを理解し、図や式に表すことが難しい。</p>	<p>イ・図やテープ図、線分図、数直線などを使って、数量の関係を視覚的に捉え理解できるようにする。</p>		<p>して活用するかを検討する必要がある。</p> <p>イ・図を描いて自分の考えを説明できる児童が増えた。</p> <ul style="list-style-type: none"> 数量関係を図にできる児童が増えたが、図にすることが難しい児童もいる。個別に指導が必要である。
第4学年	<p>ア・計算の仕方や図形の描き方など学習の定着に課題がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 定規や分度器を用いての作図に課題がある。 <p>イ・少人数習熟度別指導の効果により、児童それぞれの習熟度に合った課題に取り組んでいる。図や式、数直線などを交えながら自分のやり方を説明しているが、十分とは言えない。</p>	<p>ア・単元の初めに本単元で活用するこれまでに学習している知識・技能について振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 特に作図に課題がある児童については、教師が個別に作図の支援をして丁寧に指導するようにする。 ・ 分度器を正しく扱えるように、練習問題に取り組みながら個別指導を行う。 ・ アプリケーションのミライシードを活用して適宜習熟を図る。 <p>イ・「わり算の筆算」「計算のきまり」「小数のかけ算とわり算」の単元を中心にして、習熟度に応じた手がかりを基に、自分の考えを説明する活動を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 説明の際、わずかでも言葉を補足することで、ずっと分かりやすく伝わることを、交流活動を通して感じられるようにする。 	9月～2月	<p>ア・計算については、正答率が高まったことから改善が見られる。作図については、分度器の使い方については改善が見られるものの、垂直・平行やいろいろな四角形など新たに学習した内容も加わり、今後も改善に向けた取り組みが必要である。</p> <p>イ・図や式、数直線などをノートにかいて、それをもとにして説明することに自信が付いてきた。</p>
第5学年	<p>ア・九九の定着が十分ではなく、「小数の割り算」や「小数のかけ算」の筆算を正しくすることが難しい。</p> <p>イ・文章題で、求めたい数は理解しているが、答えを導き出すために何を基準にして考えるのかを十分に理解することができず、立式することが難しい。</p>	<p>ア・「整数の性質を調べよう」の単元でも倍数や公倍数、公約数を求める際に九九を使うため、授業の際に九九に触れる機会を作り定着を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アプリケーションのミライシードを活用して適宜習熟を図る。 <p>イ・図やグラフなど半具体物で提示することで、理解を促す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 分かっていること、聞かれていること、基にする値などを全体で確認し、数直線や言葉の式を手がかりに立式させる。 	9月～2月	<p>ア・小数の割り算やかけ算の内容で、スムーズに計算できる児童が増えてきたが、まだ定着していない児童もいる。</p> <p>イ・数量関係を数直線等に表せる児童が増えたが、分かっていることと聞かれていることの理解が難しく、図や数直線に表せない児童もいる。個別に指導が必要である。</p>
第6学年	<p>ア・小数や分数の四則計算、割合などの既習事項の定着に課題がある。</p>	<p>ア・整数や小数などの既習内容を想起して考えられるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書の振り返りコーナーを活用し、既習 	9月～2月	<p>ア・既習問題に取り組む時間を多く設定したり家庭学習で取り組んだりしたことで、既習の</p>

	<p>イ・問題を正しく読み取り立式したり、立式した理由を説明したりすることに課題がある。</p>	<p>内容を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 算数の学習の仕上げ問題に取り組み、既習事項の定着を図る。 アプリケーションのミライシードを活用して適宜習熟を図る。 <p>イ・問題場面を数直線や線分図などで表し、立式の根拠をもてるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 数直線や線分図を活用し、答えの見当を立てたり、答えを出した後に妥当性を考えたりできるようにする。 		<p>定着を図ることができたが、個人差が大きい。</p> <p>イ・少人数や全体で説明する時間を設け、自分の考えを説明する機会を増やしたことで、説明することへの意欲が高まった。</p>
<p>■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等ICTの効果的な活用について</p>		<p>■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について</p>		
<p>1, 2年</p> <ul style="list-style-type: none"> タブレット端末上の半具体物や図を使った操作活動をもとに、ペアやグループで学び合う。【重点：個別 協働】 <p>3,4,5,6年</p> <ul style="list-style-type: none"> タブレット端末上の数直線や図などをもとに自ら考え、タブレット端末を用いてグループや全体で考えを共有し伝え合う。【重点：個別 協働】 <p>全体</p> <ul style="list-style-type: none"> デジタル教材のシュミレーション機能や動画コンテンツなどを用いて思考をさらに深める。【重点：個別】 ミライシードを活用し、学習内容の定着を図る。【重点：個別】 		<p>全学年</p> <ul style="list-style-type: none"> 前時までに学習した内容や、既習の内容をもとにして、新たな問題を解決できるようにする。 課題に対するめあてをもたせ、学習の見通しを立てる。 授業の終盤には、学習の振り返りの時間を設け、次時の問題解決につなげるようにしていく。 身近な場面や日常的な場面を問題に取り入れ意欲を高める。 授業の終盤には、振り返りやまとめを行い次時への問題解決へとつなげる。 		